

みつ いし ふみ たか

三石文隆

令和3年12月号

高知県議会 三石文隆議員特集号

県政報告

〒780-8570 高知市丸ノ内 1-2-20 県議会自由民主党控室 TEL 088-823-9522



■商工労働部長 協力金や給付金などの申請漏れがないように、ホームページや新聞広告をはじめ、マスメディアを使った広報及び市町村や関連団体ともしっかりと連携し、事業者への声かけを行ってまいりました。

今後ともこれまで以上に意を用いて情報を手厚くお届けしたいと考えており、県や関係団体の広報紙の活用など、様々なツールを用いて情報発信を強化してまいります。

■三石議員 現在、猛威を振るっている新型コロナウイルス禍で、特に飲食、宿泊、観光などサービス業への打撃は極めて厳しいものとなっている。今、コロナの影響により失職や解雇、収入減などで苦しんでいる方が大勢いるが、県によるコロナ支援の情報が行き届いていない現状があるのではないかと、情報格差によって相談できない事態、申請もままならない事態は避けなければならない。

新型コロナウイルス感染症の影響を受けている事業者への支援は、漏れなく行き届いているのか、現状と今後の手だてについて聞く。

新型コロナウイルスの影響を受けている事業者への支援について

令和3年6月定例会より

三石議員の活動記録

令和3年度は総務委員会に所属しています。
(令和3年4月27日～5月21日:出先機関等の業務概要調査を行いました)

- 高知警察署
- 窪川高等学校
- 知事との意見交換会
- 岡豊高等学校
- 高知若草特別支援学校
- 高知追手前高等学校
- 清水高等学校
- 心の教育センター
- 中村高等学校
- 中村中・高等学校では校内の視察を行い、その後、学校の業務概要について説明を受け、生徒の募集状況や西土佐分校の寄宿舎の状況などについて質疑を行いました。
- 須崎総合高等学校
- 須崎総合高等学校では学校の業務概要について説明を受け、防災教育の取組などについて質疑を行い、その後、校内の視察を行いました。
- 中部教育事務所
- 総務委員会

三石文隆議員のプロフィール

- 昭和29年生まれ。
- 国士館大学法学部を卒業、教諭(中学校)になる。
- 平成5年、16年間にわたる教諭の職を辞し、政治の道を目指す。
- 平成11年4月、高知県議会議員に初当選、現在6期目。
- この間高知県議会常任委員会のすべての委員長、決算特別委員長、議会運営委員長、高知県監査委員等の要職を歴任。
- 平成23年5月、第95代高知県議会副議長。
- 平成27年5月、第94代高知県議会議長。
- 令和元年5月、自由民主党高知県議会議員団会長。
- 令和2年3月、第99代高知県議会議長に就任。
- 令和3年3月、自由民主党高知県議会議員団会長。
- 令和3年10月、決算特別委員会 委員長に就任。



本会議、常任委員会、特別委員会は特別の場合を除き、どなたでも傍聴できます。

三石文隆県政事務所

〒780-0966 高知市福井扇町13番27号
TEL 088-872-0066 FAX 088-872-1113

高知県議会ホームページ
高知県議会 検索 <http://gikai.pref.kochi.lg.jp>

知事の政治姿勢について

■三石議員 共感と前進を県政運営の基本姿勢とし、県勢浮揚に向けて邁進されている濱田知事は、政治家としてどのような生き方や展望を描いているのか。

■濱田知事 報恩感謝の思いを日々胸に刻みながら、全力で県政運営に取り組んでまいる覚悟であります。県民の皆様をはじめとし、県外にお住まいの高知を愛していただいで

いる方々との対話を通じて、県政に対する共感を得ながら、課題解決に向けて着実に前進していきたいと考えています。

私が基本姿勢とするこの「共感と前進」を絶えず心に持ち続け、活力ある、また新しい高知を皆様と共につくり上げていくという覚悟でございます。

新副知事の県庁経営について

■三石議員 濱田知事を支える新井上副知事は、どのような県庁経営

をされるおつもりか、具体策を聞く。

■井上副知事 日頃から職員に真摯に接し、できる限り多くの対話を通じて、職員の考えや思いを理解することで長所を伸ばし、そのような志を持った職員を育てていきたいと考えています。

また、県庁組織としてしっかりとベクトルを合わせて課題に取り組みことができるよう、特に部局間の連携を大切にしたいと考えております。政策調整会議などの場におきましても情報共有を図り、私を含め本音でオープンな議論も行っています。チーム県庁として、よきパフォーマンスが発揮できますよう、知事の補佐役として力を尽くしてまいります。

第2期教育大綱について

■三石議員 第2期教育大綱の理念、目標、内容が県民にどのくらい届いていると考えているのか。

■濱田知事 多くの県民の皆さんに教育大綱が知れ渡っているか、内容が浸透しているのか、また全ての教職員に大綱の内容が浸透しているのかという点を改めて考えますと、まだまだ十分とは言えず、道半ばという認識をしております。今後も共感とさらなる協力を得られるよう、なお一層努力をしてまいります。

傾向が見られるということに一致をいたしました。

これは、県から派遣をいたしております13名の指導主事の重点的な訪問指導によりまして、授業の改善が進むといった形で、県市が連携した取組の成果が徐々に現れてきたと受け止めています。

県市の教育委員会ですっかりと、引き続き情報共有や協議が続けられ、高知市における学力向上が、今後も確実に進んでいくことを強く期待しております。

国旗・国歌について

■三石議員 卒業式などにおける国旗掲揚、国歌斉唱の実施状況について聞か。

■教育長 令和元年度以降の入学式及び卒業式において、小学校1校の事例以外は全ての公立学校において実施がされております。

子ども・福祉政策部と教育委員会との連携について

■三石議員 新たに子供関連施策の推進体制を強化するため組織改編された、子ども・福祉政策部の取組について、教育委員会との連携を図っていくつもりか。

■子ども・福祉政策部長 子供たちが心身の健やかな成長と豊かな心を育んでいくためには、子供の成長の基盤となる家庭が重要な役割を担うものと認識しております。就学前におきましては、母子保健と保育所などが連携して切れ目なく伴走型の支援を続けていけるよう、現在各市町村の母子保健部門と保育所などの連携状況を確認するためのヒアリングを実施し、具体的な課題を抽出しているところです。

また、今後はネウボラの知見を持つ専門家を派遣して助言を行うなど、市町村の支援力の向上につながる取組を進めてまいります。

子供の成長の基盤となる家庭が社会から孤立することのないように、民生委員・児童委員など地域の方々と保育所、学校なども連携し、教育委員会ともさらなる連携を深めながら、安心して子育てができる環境づくりを進めてまいります。

令和2年度入学式と卒業式及び令和3年度の入学式における国歌斉唱については、全ての小中学校で実施されております。

■三石議員 土佐中・高等学校出身の濱田知事は、いまだに学習指導要領に従わず、国旗・国歌の実施がなされていない母校の事実についてどのように考えているのか。

■濱田知事 我が国の国旗・国歌はもとより、全ての国の国旗・国歌に関する正しい認識と、それらをひとしく尊重する態度を教育していく必要があると考えています。自国のみならず、お互いの尊厳を尊重していく態度をしっかりと身につけた社会人を養成していくためにも、国旗・国歌に関する教育は大切だと考えています。



濱田知事 全ての国の国旗・国歌に関する正しい認識と、それらをひとしく尊重する態度を教育していく必要があると考えています。



自殺予防対策の強化について

■三石議員 令和2年中における自殺の状況によると、その数は2万人を超え、対前年比4.5%増となっており、年齢階級別で見ると、二十歳代が最も多く増加している。その背景は様々であろうと思うが、かけがえのない命を守る対策を早急に強化していく必要があると考える。自殺予防対策の取組と今後の推進について聞か。

■子ども・福祉政策部長 県では、「いのちの電話」や専門相談機関の周知を図ってまいりました結果、昨年度は延べ8,000件を超える相談を受け付けております。

また、ゲートキーパーの養成研修や、地域のかかりつけ医を対象とした対応力向上研修を行うなど、自殺予防に向けた支援力の強化を図っております。

今年度は各市町村の自殺予防対策の強化で市町村の活動を支援するとともに、市町村主体の研修や啓発活動など、地域の特性に応じた自殺予防の取組を支援してまいります。

高知市の学力向上対策について

■三石議員 高知市学力向上推進

室に派遣している指導主事による学校訪問の現状について聞か。

■教育長 県内の児童生徒の半数が在籍する高知市の学力向上を目指し、学力向上推進室に、県教育委員会から指導主事を派遣して、授業改善を目的とした指導の充実に努めてまいりました。

コロナ禍で訪問回数は減ってはいるものの、本年度も1,800回以上の訪問指導を予定しております。また、県と市が連携し、より機動的に改善に向けた取組を徹底することとしております。

■三石議員 連携会議の手応えと、今後の高知市の学力向上対策について聞か。

■濱田知事 昨年度の教育版県市連携会議で、課題の大きかった中学校の学力について、同一集団におきまます経年変化を分析した結果、改善

自国の国旗に敬意と誇りを持って掲げることや、自国を象徴する国歌を卒業式や入学式はもとより、文化的な行事や国際的な大会で斉唱することは世界の常識だ！



土佐中・高等学校の生徒がこの国旗・国歌の大切さを学ぶ貴重な機会を享受することができないということとは、教育の機会均等の観点からも、望ましいものではないと思いません。この点、大変残念に思っているところであります。引き続き、実施に向けて粘り強く要請を続けてまいりたいと考えています。